PROJECT MANAGEMENT SYMPOSIUM JAPAN 2011

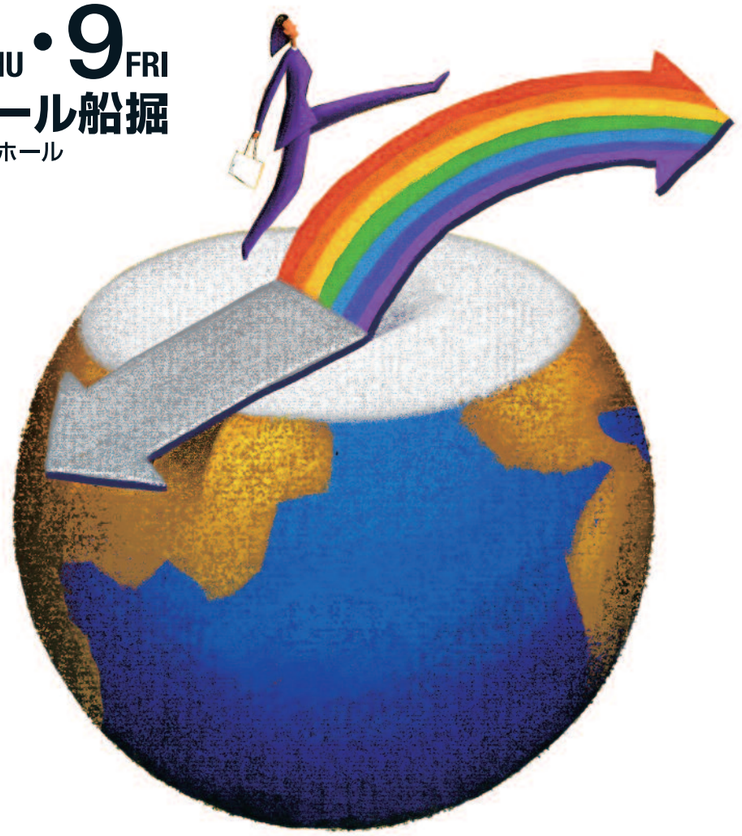
<<< ENAA/PMAJ 国内最大のPM大会

PM シンポジウム 2011

9/8THU・9FRI

タワーホール船掘

江戸川区総合区民ホール



発想そして実行

協創のプロジェクトマネジメント

>>> 主 催／一般財団法人エンジニアリング協会（ENAA）
特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会（PMAJ）

>>> 後 援／経済産業省（予定）

参加申込要領 PMシンポジウム

● **お申し込み方法**

WEBにてお申込みを受付けます。『PMシンポジウム2011』のご案内ページをご参照ください。

http://www.pmaj.or.jp/sympo/2011/main.html

● **参加申込み期限**

8月22日（月）〔早期割引申込み期限 7月29日（金）〕

※申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお薦めいたします。

● **お支払い方法**

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付けデータをお送りいたします。
早期割引適用の方は8月5日（金）までに、それ以外の方は8月29日（月）までに下記の口座にお振込みください。
また、**お振込み時には、参加者名及び電子メールに記載されていますお申込み番号を必ずご記入ください。**

※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもって申込みをお願いいたします。
※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
※参加証は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りさせていただきます。
※申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。

口座名：三菱東京UFJ銀行　本店　普通 0737079
名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
トクヒ）ニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

● **お問い合わせ**

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
E-mail : admi-sympo@pmaj.or.jp　TEL.03-3539-3022　FAX.03-3539-1741

● **参 加 費**　注）参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。
会費及びシンポ参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送りいたします。

	9月8日（木）			9月9日（金）			
	シンポジウム		懇親会	セミナー・ワークショップ			
	7/29まで（早期割引）	7/30以降（通常申込）		7/29まで（早期割引）		7/30以降（通常申込）	
PMAJ個人正会員	7,000円	8,000円	無　料	8,000円（半日講座）	16,000円（1日講座）	9,000円（半日講座）	18,000円（1日講座）
PMAJ法人正会員およびENAA賛助法人会員の社員または職員	10,000円	11,000円		11,000円（半日講座）	22,000円（1日講座）	12,000円（半日講座）	24,000円（1日講座）
PMI会員及びITC協会会員							
一般参加者	13,000円	14,000円		14,000円（半日講座）	28,000円（1日講座）	15,000円（半日講座）	30,000円（1日講座）
学　　生	3,000円			10,000円（半日講座）	20,000円（1日講座）	11,000円（半日講座）	22,000円（1日講座）

ENAA（一般財団法人エンジニアリング協会）

ENAAは、プロジェクトマネジメントをはじめとするエンジニアリング技術の向上・普及を目的として、1978年に設立されました。エンジニアリング、造船重機、鉄鋼、電機通信、産業機械、総合建設企業など175社が会員となっています。2011年4月1日より財団法人エンジニアリング振興協会から一般財団法人エンジニアリング協会に移行しました。

PMAJ（NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会）

PMAJは、プロジェクトマネジメント資格認定センター（PMCC）と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム（JPMF）が2005年11月に統合した協会です。
P2M資格試験や講習会・PMシンポジウム、例会、PM研修、国際交流、機関誌の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。

ACCESS >>> 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分

東京都江戸川区船堀 4-1-1　TEL.03-5676-2211

PMシンポジウム2011

開催のご案内

変化の激しい環境への社会・産業の迅速な適応が求められる現代、移りゆくニーズを的確に捉え価値あるモノに実現していくことが必須となっています。特にわが国は、東日本大震災によって引き起こされた大惨事から一日も早い復興を遂げて新たな日本ブランドを創り、国際社会からの期待に応える必要があります。

そのためには、日本ならではの「豊かで独創的な発想」、「発想を周到な計画に導く戦略と方法論」、そして、これを確実に具現化していく「堅固な実行力」の発揮が不可欠です。私たちは、この総合力を高める方策が、様々な知識と知恵を重ね合わせて取り組んでいく『協創』にあると考えます。

今回のシンポジウムでは、「発想そして実行」をテーマに、協創に視点を当て、困難を克服して持続的な発展・向上をもたらすプロジェクト マネジメントについて考えていきます。

豊かで独創的な発想

プロジェクトの成否は企画・構想にあると言っても過言ではありません。

アイディアを価値創造プロジェクトへと変身させ　実現に向け具現化するための、発想の活性化、戦略の立案、計画の策定、実行へとマネジメントしていく方法を紐解き、エッセンスが豊富に詰まった講演を多数準備しています。

堅固な実行力

目標を掲げそれに向かって確実に計画を実行していく強い意思、直面した新たな困難を乗り越え強力に推進していく力が求められます。

今回は特別企画として、危機対応プラン、危機管理方法、事故・災害からの復旧、復興などについて考えるトラックも設けています。

知識と知恵の協創

一人ひとりの知識と知恵を重ね合わせ、共有・拡大・深化させ、共に創り上げていくことが有効です。講演、セミナーやワークショップを通じて得られた英知を、未来に向け協創していきましょう。

毎年好評のカフェ・ド・eーシンポに加えTwitterによる情報発信、意見交流をリアルタイムで行う「場」もご用意しています。

各種ポイントの認定対象となる―

PMシンポジウム2011

■CPU ■PDU ■PM教育受講証明 ■知識ポイント

■CPU

発給ポイントは以下の通りです。（1時間当たり2ポイントが基本となります）

- 1日目（全時間出席の場合）：10.5ポイント
- 2日目（半日講座）：5ポイント
- 2日目（1日講座）：10ポイント

CPU取得証明書を発行いたします。

■PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー（REP）であり、本大会は、メイン・シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目：5.25PDU
- 2日目（半日講座）：2.5PDU
- 2日目（1日講座）：5PDU

ご注意　PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。（1日目・2日目を分割するとエラーになります。）また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

■知識ポイント（ITコーディネータ）

ITコーディネータ資格者には、協賛（後援）により、1日目は6時間30分、2日目は、半日講座はそれぞれ2時間30分、1日講座は5時間（4時間当り1ポイント相当（上限なし））の「知識ポイント」が付与されます。

PMシンポジウム2011

基調講演

1日目（9月8日）午前

基調講演1　10:00〜

災害レジリエンスの高い社会の実現を目指して

効果的な防災対策を自立的に進めていく仕組みとは

東京大学教授
東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター長　目黒 公郎

2011年3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震（Mw9.0）は我が国の観測史上最大の地震であり、数分間に及ぶ強い地震動や20メートルを優に超える浸水高さの津波を原因として、インフラを含む多数の構造物や施設の被害、延焼火災、地盤関連の被害を引き起こした。特に巨大津波による被害は甚大で、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらし、犠牲者総数は死者・行方不明者2万5千人以上となっている。この地震災害は阪神・淡路大震災とともに、地震活動期に入ったといわれる我が国にとって、首都直下地震や東海・東南海・南海地震などへの対策が急務なことを物語っている。

一方海外に目を転じれば、2004年12月スマトラ沖地震津波によって22万人以上、2005年10月パキスタン北部地震と2008年5月中国四川地震ではいずれも8万人以上、2010年1月ハイチ地震では22万人以上の犠牲者が主に建物被害を原因として発生している。

このような災害を軽減するシステムはどうあるべきか。誰だって、地震や津波の発生阻止が不可能なことも、津波に強いまちづくりや耐震性の高い建物が重要なことも知っている。問題は「なぜそれが実現できていないのか」である。本講演においては、問題を冷静に分析したうえで、「災害レジリエンスの高い社会を実現するにはどうすればいいのか」について、課題全体を俯瞰した上でソリューションを導く全体的な概念とともに、具体的な事例を紹介する。

【講演者略歴】東京大学教授。地震被害を代表とする災害損失の最小化のためのハードとソフトの両面からの戦略研究、内外の災害と事故の現地調査、途上国の地震防災の立ち上げ運動の実施。「現場を見る」「実践的な研究」「最重要課題からタックル」がモットー。中央防災会議専門委員ほか、多数の省庁や自治体、ライフライン企業等の防災委員を務める。書籍は「被害から学ぶ地震工学」「地震のことはなそう（絵本）」「東京直下大地震生き残り地図」「ぼくの街に地震が来た（漫画）」「緊急地震速報」「間違いだらけの地震対策」「都市と防災」など。受賞は日刊工業新聞技術・科学文化図書賞（大賞）、土木学会出版文化賞、文部科学大臣表彰（科学技術賞）など。

基調講演2　11:05〜

総合商社はプログラムマネジメントカンパニー

海外インフラ投資事業に見る商社のプログラムマネジメント

株式会社三井物産戦略研究所
プロジェクトエンジニアリング室長　美原　融

総合商社は輸出入や商社金融をベースとしたコミッションビジネスを業とすることが基本でもあったが、1980年代以降、戦略的に海外におけるエネルギー資源投資や様々な産業投資、インフラ事業投資等を手がけ、その収益構造はフローの商売から得られるコミッションではなく、ストックがもたらす投資リターンにより大きく依存する業態へと変貌しつつある。この結果、総合商社は、現代社会においては、巨大な海外投資事業のプレーヤーとしての経験と能力を併せ持つ主体となっている。内、海外インフラ投資事業とは、あまり知られていないが、超長期に亘り途上国へ入り、広く、薄くリターンを得る息の長いビジネスモデルになる。巨額な投融資を必要とし、これが超長期に亘り固定するため、その実現の為には、緻密な戦略が求められ、様々なリスク管理の仕組みやあらゆる契約・投融資の技術、その実践的な管理とポートフォリオ資産管理が要求される。知力、経験、資金力、統合力、交渉力、実践力が求められる事業投資案件でもあり、その戦略企画と枠組みの構築と実現は一種のプログラムマネジメント的な考えの実践でもある。如何なる戦略と背景で90年代以降、商社はかかる発展を遂げてきたのか。その要点は何か。如何なるアプローチが、成功をもたらしてきたのか。プロジェクトをフローではなく、ストックと見なして実現し、管理するという発想の転換が重要であり、その実際の経験をお伝えする。

【講演者略歴】1973年三井物産株式会社に入社、プロジェクト開発・プラント輸出・インフラ事業投資を手がけ1990年代アジアにおける民間電力案件でパイオニア的な事業投資をリードした。90年代以降、我が国省庁によるPPPの研究会や委員会等に参加し、1999年より2009年まで内閣府・民間資金等活用事業推進委員会専門委員、2003年より2006年まで内閣府・規制改革民間開放推進会議専門委員等を歴任。1999年より株式会社三井物産戦略研究所プロジェクトエンジニアリング室長。大阪商業大学客員教授、東洋大学大学院客員教授を兼務。著書に「PFIガイドブック」、「日本版PPP」、「商社」、「PFI実務のエッセンス」、「概説市場化テスト」、「官製市場改革」等。

PMシンポジウム2011 シンポジウムプログラム

SIG：特定テーマ研究会（Specific Interest Group）　CFP：公募講演（Call for Presentation）　ワークショップ：参加型講座　P2M：研修事業第1部会　PMP：研修事業第2部会

※両日とも会場はPMAJホームページにてご確認下さい。（8月中旬掲載予定）

9月8日（木）　•2F 平安「カフェ•ド•eシンポ」…“展示コーナー” “参加者交流の場” “ドリンクサービス”

午前

5F 大ホール•小ホール

09:15	開場、受付開始
09:45〜10:00	開会のご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」
10:00〜10:50	基調講演 1 **災害レジリエンスの高い社会の実現を目指して** 東京大学教授 東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター長 **目黒 公郎**
11:05〜11:55	基調講演 2 **総合商社はプログラムマネジメントカンパニー** 株式会社三井物産戦略研究所 プロジェクトエンジニアリング室長 **美原 融**

※小ホールは映像による中継となります。

午後

	IT トラック	P2M トラック	エンジ•建設•公共 トラック	製造 トラック	金融•流通•サービス トラック	PM人材育成 トラック	特別企画
13:10〜14:00	**【IT-1】現場でのプロジェクトマネジメント** 実際の現場で、PMはどうやるか 佐藤 義久（富士通）	**【PA-1】省電力を実現するソフト開発手法の紹介** 中国地区の産学官連携におけるP2Mの適用事例 舩岡 和宏 （アイシーエナジー•スタンダード）	**【EG-1】地球熱利用による低炭素地域活性化促進** 脱石油自然エネルギーへ転換の地域プロジェクト 田村 八洲夫（川崎地質）	**【MS-1】諏訪のDTFイノベイションを世界に発信** 次世代ものづくりデスクトップファクトリー（DTF） 平出 正彦（DTF研究会、平出精密）	**【FI-1】品質管理とキャパシティ管理のプロセス** 株式売買システムarrowheadでの取り組み 宇治 浩明（東京証券取引所）	**【PS-1】斎藤佑樹　主将達と共に歩んだ4年間** 早稲田大学野球部 明治神宮大会初優勝までの軌跡 應武 篤良（新日本製鐵）	**【SP-1】これからの事業継続マネジメント** 経験を実践へとつなげるBCM 伊藤 毅（富士通総研）
14:15〜15:05	**【IT-2】ソフトウェアプロダクトライン** その考え方を支える仕組み 林 好一（SRA）	**【PA-2】IT分野でのP2M活用研究** P2Mを活用すれば日本のITを強く出来る 近藤 洋司（ゆうちょ銀行） SIG	**【EG-2】ユーカリが丘の街づくり事業** 子供たちの未来を創造するために取組むべき課題 田中 一雄（山万）	**【MS-2】リスク管理重視のLSI開発プロジェクト** 後追い型課題管理からプロアクティブ型リスク管理へ 加藤 恒（ヤマハ）	**【FI-2】両輪はBABOKとPMBOK®** 人と人を繋げるプロジェクトマネジャーの新常識 平井 丈裕（パスモ）	**【PS-2】プロジェクトマネジメント East meets West** グローバル視点を目指すプロジェクトマネジャーのための 永谷 裕子（PMI日本支部）	**【SP-2】想定外の事態におけるリーダーのあり方** 平時の行動が決め手〜化学テロ対応からの教訓 福山 隆（ダイコー）
15:35〜16:25	**【IT-3】arrowheadシステムにおける品質確保の実践** 当たり前の作業が正しく行われていることをフォローする仕組みづくり 澁谷 岳正（富士通） CFP	**【PA-3】クラウド導入成功のビジネスモデル** 平井 一志 （年金積立金管理運用） CFP	**【EG-3】PJの成功度に見る、日•欧米コントラクター比較** 建設PJの成功要因とモチベーション比較 石倉 政幸（CCC）	**【MS-3】宇宙開発プロジェクトの知識継承** 組織的な知識継承と、はやぶさ等の事例 小川 亮 （宇宙航空研究開発機構） CFP	**【FI-3】ITプロジェクトを成功に導くPMO** 顧客側マネジメントPMOのベストプラクティス 百村 幸男（コア） CFP	**【PS-3】アジャイル開発におけるリーダーシップ** アジャイル開発プロジェクト成功の秘密 竹腰 重徳（アイネット） CFP	**【SP-3】災害に備える新しい社会の仕組みの創造** 佐藤 唯行（シュアティ•マネジメント協会）
16:40〜17:30	**【IT-4】組織を動かす根回しスキル** ステークホルダー分析と説得工作 長尾 清一（PMコンセプツ）	**【PA-4】スマート•シティの一体化構想への取り組み** 構想推進のプログラムマネジメント 丸山 修平（日揮）	**【EG-4】グローバル化の次に来るもの** 日本人最少化大型プロジェクト実行から見えてきた事 細井 栄治（東洋エンジニアリング）	――――	**【FI-4】金融サービスにおけるIT価値の協創** 事業パラダイムシフトを支えるITガバナンス 島田 直貴 （金融ビジネスアンドテクノロジー）	**【PS-4】PM実戦力育成策の研究報告** 実践力を真の「実戦力」に高めるために 木野 高史（富士通） 秋山 雅俊（NTTデータユニバーシティ） 高野 智（インテック） SIG	**【SP-4】復興支援プログラム「ITで日本を元気に!」** その後の被災地の状況と震災復興の進捗について 佐々木 賢一（トライポッドワークス）

夕方

2F 瑞雲

18:00〜20:00	**懇親会** 『プロジェクトマネジメントを肴とした語らいの場』では、講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供致します。

※講演者および演題は都合により変更される場合があります。

9月9日（金）　セミナー•ワークショップ全20プログラム開催 〜PM基礎／実践•PM人材教育•業種ごとのセミナー•ワークショップ〜

午前（10:00〜12:30）

A-1	**日本再建に不可欠なP2M:プロジェクト&プログラムマネジメント** 正しいP2Mを学ぼう、緊急時でも活躍できるプロマネのノウハウ 渡辺 貢成（経営組織研究所）	P2M
A-2	**ポートフォリオ&プログラムマネジメント概説** PMI®（米国PM協会）標準の知識体系の解説 内藤 裕一（ピーアンドアイ）、米澤 徹也（東洋エンジニアリング）	PMP
A-3	**問題深掘への「なぜなぜ5回（階）」** 「もっと一生懸命」だけで問題はなくならない 小原 由紀夫（富士通アドバンストエンジニアリング）	SIG
A-4	**クラウド時代のRFP作成実践法** ユーザ企業のクラウド戦略とIT調達力の強化 前田 卓雄（匠システムアーキテクツ）	
A-5	**アジャイル開発とプロジェクトファシリテーション** 現場力を高めるモチベーションアップのツールと場づくり 平鍋 健児（チェンジビジョン、永和システムマネジメント）	
A-6	**修羅場を乗り切るPMの資質** プロジェクトの難局から学し、大きく成長する 中嶋 秀隆（プラネット）	

午後（13:45〜16:15）

B-1	**PMBOK®解説講座** 難解なPMBOK®をITプロジェクトで理解しよう! 秋山 孝之（日立コンサルティング）	PMP
B-2	**ITプロジェクト「急がば回れ」の法則** プロジェクト成功のカギは立ち上げ時の土台作り 戸田 朋宏（ヘッドストロング•ジャパン）	
B-3	**メンバーは作業者 OR 技術者?** 自立した中堅エンジニアの育成と協創の場を作る 松尾谷 徹（デバッグ工学研究所、PS研究会）	SIG
B-4	**PMの先にあるキャプチャーマネジャー** P2Mとの類似性に着眼した案件獲得のメソッド 北村 和彦（シップレイジャパン）	
B-5	**プロジェクトマネジャーのための “Dress for success”** 印象（装い）はビジネスの成功に直結します 鵜内 敏江（パーソナルコンサルティング）	
B-6	**プロジェクトマネジャーの未来** プロマネの哲学と組織デザイナーとしての役割 伊藤 健太郎（アイシンク）	

午前（10:00〜12:30）

A-7	**教育の原点に立ち戻って** 「伝達、調教的指導」から「気付き•探求する姿を目指す指導」の転換 星 正雄（東京福祉大学）	
A-8	**「どこでもリーダー」を育てよう** 『坂の上の雲』から学ぶリーダーの育て方 津曲 公二（ロゴ）	
A-9	**若手を育てる!生きたOJTのススメ** 実践事例から今すぐ使える育成ノウハウを学ぶ 田中 淳子（グローバルナレッジ ネットワーク）	

午後（13:45〜16:15）

B-7	**チームビルディングの技術** 最強チームの作り方講座 長尾 彰（している）	
B-8	**実戦システム運用プログラム開発** 危機に行動できる人と組織を創る 岡崎 博之（データセンター開発コンサルタント）	
B-9	**プレイングマネジャーのための5分間コーチング** プレイングマネジャーのためのシンプルなコーチングで人財育成を考える 上田 雅美（アネゴ企画）	ワークショップ

1日セミナー

A-10	**コンフリクト•マネジメント** 多様化する職場人間関係における協調的問題解決 鈴木 有香（オイコス）	ワークショップ
A-11	**チーム開発力の高いPMになる!** リーダーシップの在り方を確実に変える理論•体験•事例 新岡 優子（ビジネスファシリテーション•サービス）	ワークショップ

【A-10】•【A-11】は1日ワークショップです。
スケジュールは次のとおりとします。

- □ 午　前　10:00〜12:30
- □ 昼　食　12:30〜13:30
- □ 午　後　13:30〜16:00

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお薦めいたします。
※講師および演題は都合により変更される場合があります。

1日目（9月8日）セッション概要-I

ITトラック

IT-1 13:10 現場でのプロジェクトマネジメント
実際の現場で、PMはどうやるか

富士通株式会社　第二バンキングソリューション事業本部
プロジェクト課長　佐藤 義久

【セッション概要】
プロジェクトマネジャーは、プロジェクトを成功に導くことが役目である。プロジェクトは生きているため、ドロドロしていて、マネジメントの知識や理論・理屈だけではプロジェクトは成功しない。成功させるためには、目的を見失うことなく、場面ごとに何が必要かを考え、最善となる事を実施する必要がある。今までのプロジェクト現場での経験・体験を通し、「PMに必要なスキル」と「現場で実践してきたマネジメント要素の実施ポイント」について、例を含めて述べる。

【講演者略歴】1982年某アパレルメーカ入社。システム開発に従事。1987年富士通のSE部門に入社。銀行等の金融機関のプロジェクト業務に従事。現場でのPMを実施しながら、社内PM研修講師を実施。現在、2000人月超の移行システムプロジェクトのPMを実施中。

IT-2 14:15 ソフトウェアプロダクトライン
その考え方を支える仕組み

株式会社SRA
産業開発第1事業部　第2部　林 好一

【セッション概要】
今、ソフトウェアプロダクトラインエンジニアリング（SPLE）がますます注目を集めている。理由は、品質を犠牲にせずに生産性を劇的に向上しうるからであるが、実は真骨頂はビジネスでの機動性が確保できるようになることである。本講演では、まずSPLEによってビジネス上の効率が達成できることを示し、次いでそのために重要になるプロセスを概観する。また、再利用を根幹に据えるSPLEの、単一システム開発にはない種類の活動に触れ、再利用そのもののあり方を見直す。

【講演者略歴】ソフトウェアプロセスおよびSPLEを対象分野として調査研究、モデリング、教育や課題識別・解消等の支援活動を行う。2009年、「ソフトウェアプロダクトラインエンジニアリング」を共訳。組込みソフトウェアギルド代表幹事、SPL国際会議チュートリアル共同チェア。

IT-3 15:35 arrowheadシステムにおける品質確保の実践
当たり前の作業が正しく行われていることをフォローする仕組みづくり

富士通株式会社　保険証券ソリューション事業本部
東証事業部　澁谷 岳正　CFP

【セッション概要】
「世界最高クラスの性能」を実現したシステムの開発における現場の作業は特別なものではなく、一つひとつの作業を実直に、真摯に行って、地道に積み上げた結果である。PMは全員が同じ意識、同じ認識、同じ目標を持って作業するよう導いた。
システム開発は当たり前の作業を軽視せずしっかりと行うことで成果をあげることができる。arrowheadシステムの開発において品質確保につながった「全員が当たり前の作業を自然にできるようになる」ためのマネジメント手法を紹介する。

【講演者略歴】慶應義塾大学環境情報学部卒。重工メーカーのシステム部を経て2002年富士通株式会社に入社。以来、金融取引所や証券業務等のシステム開発に従事。2007年より東京証券取引所arrowheadシステムの業務アプリ開発を担当。2005年PMP®取得。2010年富士通PM認定取得。

IT-4 16:40 組織を動かす根回しスキル
ステークホルダー分析と説得工作

株式会社PMコンセプツ
代表取締役社長　長尾 清一

【セッション概要】
プロジェクトの推進には様々なステークホルダーの利害が絡んでくる。どんなに優れた企画提案でも承認されなければ実行できない。それぞれの立場や目的、優先順位の違いが速やかな支持獲得を阻む状況で、単に正論を押し通しても行き詰まるだけだ。ステークホルダー分析を基にした戦略的な「根回し」が不可欠。これまで現場ではPM手法を洗練化させてきた反面、人を説得する術が軽視されてきた。今回は「いかに行動力学的に人を説得し、合意形成を実現させるか」を解説する。

【講演者略歴】UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。1993年よりPM専門の米国企業アジア総責任者としてアジア7ヵ国でPM研修を実施。1993年PMP®取得。1997年㈱PMコンセプツ設立。近著に「問題プロジェクトの火消し術」「ベンダー・マネジメントの極意」

P2Mトラック

PA-1 13:10 省電力を実現するソフト開発手法の紹介
中国地区の産学官連携におけるP2Mの適用事例

アイシーエナジー・スタンダード　代表
広島P2M倶楽部世話人　舩岡 和宏

【セッション概要】
電力が無尽蔵ではないと分かった現在において『省電力』の重要性は、それまでのエコに対する取り組みとは比較にならないほど加速しているが、中国地区では「ソフトウェアで省電力を実現する!」というテーマについて、産学官で2008年から取り組み、今年事業化に至った。
本セッションでは、このプロジェクトの経緯とその中で得られたマネジメント成功のための原則、またソフトウェアで省電力を実現するためのノウハウや、分散処理に特化した言語「Erlang」を紹介する。

【講演者略歴】平成7年 大阪教育大学数理科学専攻卒業。 平成7年～ 株式会社ジーテック（広島市）にてソフト開発に従事。 平成21年 経産省戦略的基盤技術高度化支援事業にてPM。 平成23年 アイシーエナジー・スタンダードとして事業化。平成19年～ 広島P2M倶楽部代表。

PA-2 14:15 IT分野でのP2M活用研究
P2Mを活用すれば日本のITを強く出来る

株式会社ゆうちょ銀行
第一システム開発部　部長　近藤 洋司　SIG

【セッション概要】
IT分野ではプロジェクトマネジメントが普及、定着した。一方、プロジェクトの高度・複雑・経営直結化が進み、従来PM手法だけでは限界も出ている。PMシンポ2010では、これらIT業界の課題と解決のためにはP2Mの活用が有効であると発表した。そして、今回、PMシンポ2011ではユーザ、ベンダーが一体化して、高度・複雑・経営直結化したプロジェクトを成功させるための、P2Mの具体的活用方法を発表する。なお、現在、これらをP2M活用ハンドブックとして編纂中である。

【講演者略歴】早稲田大学理工学部卒後、富士通株式会社入社。主として、金融機関向けシステム開発に従事。システムエンジニア、プロジェクトマネジャー、システムコンサルタントなどを経て、2009年より現職。

PA-3 15:35 クラウド導入成功のビジネスモデル

年金積立金管理運用独立行政法人
情報化統括責任者（CIO）補佐官　平井 一志　CFP

【セッション概要】
東日本大震災により電子化の脆弱性が露になり、エネルギー効率の観点からクラウドコンピューティングの有効性がクローズアップされることになった。しかしクラウドには、データを物理的に廃棄できないなどの制約がある。したがってクラウド導入成功には、ただ単に仮想化技術のみならず、仮想化技術とコンテンツとの同期を取るビジネスモデルの構築が必要不可欠である。P2Mのスキームモデル、システムモデル、サービスモデルを活用し、ビジネスモデル構築のポイントを説く。

【講演者略歴】1975年三井信託銀行株式会社（現三井住友トラスト・グループ）入社、資金部、資金証券部、総合企画部、年金運用部、公的年金運用部長。2002年同信託システム子会社、中央三井インフォメーションテクノロジー株式会社取締役就任、品質保証部長ほか歴任。2008年現職。

PA-4 16:40 スマート・シティの一体化構想への取り組み
構想推進のプログラムマネジメント

日揮株式会社　顧問
事業推進プロジェクト本部　丸山 修平

【セッション概要】
PMAJは公的委託で「環境ビジネスの大規模開発プロジェクトにおけるP2M活用モデル」の研究を行った。大規模環境対応プロジェクトを一体化して実現し、結果我が国輸出戦略の基幹化とすることを狙い。特にスマートシティーをまとまった実体として実現する案件では、産業の枠を超え日本の都市インフラ構想化力、技術、運営経営ノウハウを「プログラム」マネジメントにより結集し、最先端の低炭素循環型社会インフラを、競争力を兼ね備えて創る試みであり複数の案件が構想段階にある。

【講演者略歴】総合エンジニアリング産業の特性を生かし海外市場を主にした新規ビジネス開拓に長年従事し、これまでに情報通信、IT、バイオマス、新エネルギーなどに関与し、現在海外の都市化に焦点を絞り新規ビジネス領域拡大の戦略構築と案件リーディングに当たっている。

エンジ・建設・公共トラック

EG-1 13:10 地球熱利用による低炭素地域活性化促進
脱石油自然エネルギーへ転換の地域プロジェクト

川崎地質株式会社
技術本部　顧問　田村 八洲夫

【セッション概要】
秋田県ではハウス栽培に石油系燃料使用では採算割れ農家が増えている。そこで、各地に豊富な温泉水、地下水、地中熱等（「地球熱」と総称）を永続的な自然熱エネルギーとして、先ず農業利用、さらに融雪、空調熱源に普及を目指し、脱石油地域振興を目的に活動している。そのため2010年2月に県内産学官連携組織を会員45名で結成し、同時に新発想で低費用な地球熱の採熱・放熱法の研究開発、見せるモデル事業の実証試験を進めている。地球熱利用の理解が県内各地で浸透している。

【講演者略歴】京都大学・大学院で地球物理学専攻修了後、1973年4月に石油資源開発㈱入社、物理探鉱業務配属。1998年6月、同社取締役就任。九州地熱㈱代表取締役社長、日本大陸棚調査㈱専務取締役等を歴任後、2009年7月退職。同8月川崎地質㈱顧問就任、現在に至る（67歳）。

EG-2 14:15 ユーカリが丘の街づくり事業
子供たちの未来を創造するために取り組むべき課題

山万株式会社　街づくり推進室
執行役員　統轄部長　田中 一雄

【セッション概要】
ユーカリが丘の街づくりのビジョンは少子高齢化、環境共生化、地方分権化、高度情報化、国際化という５つの街づくりのトレンドがある。限られた財源を活かし「安心・安全で環境と健康に配慮された街」をどうつくるか、そして、「自分の街に誇りと愛着を持って、健康に住み続けられる街づくり」をいつまでも実現させていくことができることである。そのためには、いかにデベロッパー（山万）が住民と行政と三位一体型の街づくりをして、街の成長管理をしていく必要がある。

【講演者略歴】1973年 青山学院大学卒。ユーカリが丘の土地、戸建て、マンションの販売、用地買収、開発計画を担当。現在は、ユーカリが丘の開発や住民の方々と共に街づくりの一員となり業務を遂行している。

EG-3 15:35 PJの成功度に見る、日・欧米コントラクター比較
建設PJの成功要因とモチベーション比較

CCC（プラント建設会社、アテネ）社顧問
石倉 政幸

【セッション概要】
筆者が顧問を務める建設会社の建設プロジェクトの実績から日本と欧米の国際的なEPCコントラクターのE&Pパーフォーマンスがプロジェクト成功度といかに関連するかの比較の結果から見えてくる、EPCプロジェクト遂行におけるスタッフのモチベーションの重要性が明らかとなった。

【講演者略歴】1962年福井大学工学部機械工学科卒。同年　千代田化工建設㈱入社、1993年同社取締役、1997年同社海外プロジェクト本部長。2000年技術士（経営工学部門）取得、2001年同社退職。PMCC事務局長2006年同上退任。ギリシャCCC社（プラント建設系大手業者）顧問。

EG-4 16:40 グローバル化の次に来るもの
日本人最少化大型プロジェクト実行から見えてきた事

東洋エンジニアリング株式会社
海外第一プロジェクト本部長代行　細井 栄治

【セッション概要】
海外プラント建設の歴史はエンジニアリング会社が生き残りを懸けてグローバル化を推進した歴史でもある。2010年、経済成長著しいインドで大型石油化学プロジェクトを最少人数の日本人で完工した。大きなチャレンジであったプロジェクト遂行を振り返り、日本企業の『グローバリゼーション』の問題点と困難点を考察し、『グローバル』の次に要求されるものは何かを模索する。また、世界のエンジニアリング会社が軒を連ねるインドの現状を紹介し、今後のビジネス展望を考える。

【講演者略歴】1982年東洋エンジニアリング㈱入社。国内製油所、サウジアラビア肥料、タイ製油所、韓国石化、インドネシア石化、インドネシア火力発電のプロジェクト経験後、2001年よりPMとしてインド製油所、ベネズエラ製油所、インド石化等に従事。2011年より海外第一プロジェクト本部長代行。

1日目（9月8日）セッション概要-II

製造トラック

MS-1 諏訪のDTFイノベイションを世界に発信
13:10 次世代ものづくりデスクトップファクトリー（DTF）

DTF研究会　会長
株式会社平出精密　代表取締役　平出 正彦

【セッション概要】
DTFは、小さなものを小さな機械や装置を使い最適な場所で合理的に生産する、地球と環境に優しい新しい生産方式の「工場」である。精密機械加工技術を受継ぐ諏訪地方の大企業・中小企業の共同体が世界を視野に10年かけて開発した。本講演では、国際展示会への出展やフランスのメカトロニクスアワード受賞などに至った市場開拓の軌跡と、海外の研究機関や医療器械メーカーからの引合い対応など、プロセスイノベイションの発想で展開しているビジネスモデルを紹介する。

【講演者略歴】株式会社平出精密　代表取締役社長。DTF研究会会長、長野県シートメタル工業会副会長、日本経営工学会・レーザ協会・レーザ加工学会会員。学生時代よりMTM国際ライセンス取得、IE工学を中心にコンサルタント活動を行う。中央大学理工学部卒。

MS-2 リスク管理重視のLSI開発プロジェクト
14:15 後追い型課題管理からプロアクティブ型リスク管理へ

ヤマハ株式会社　半導体事業部　商品開発部
プロセス支援グループ 主任　加藤 恒

【セッション概要】
当社のLSI製品は顧客システムにおける中核部品であるため失敗時の手戻りコストが大きく、開発計画が破綻しないよう従来からリスク管理を徹底してきた。しかし、実際には課題管理に終始するなど手遅れとなる場合も多かった。
当講演では、課題管理からの脱皮のきっかけとなった「リスク管理視点での企画・先行開発プロセスの定義」「リスク対策の実効力を高める仕組み作り」等の事例を紹介すると共に、開発現場と支援チームの協調による仕組み改善の重要性についても論ずる。

【講演者略歴】1998年ヤマハ㈱入社。2003年より事業部門へのソフトウェア開発プロセス改善活動・PM導入支援を行う全社スタッフ（SEPG）となる。2007年より現職。アナログICの開発プロセス改善を担当。SQiP2010「SEPGによるハードウェア開発プロセス改善事例」共著。

MS-3 宇宙開発プロジェクトの知識継承
15:35 組織的な知識継承と、はやぶさ等の事例

独立行政法人宇宙航空研究開発機構
システムズエンジニアリング推進室　開発員　小川 亮 CFP

【セッション概要】
人工衛星や国際宇宙ステーションなど宇宙機構が取り組むプロジェクトは様々な分野に渡るが、そこから得られた経験や知識は組織的に共有、継承できるような事例も多く、知識継承の活動を充実させることは組織的なPMやエンジニアリングスキルの向上のために重要な活動であり、長年にわたり様々な試みを行っている。
現在、宇宙機構で実施している知識継承の活動について、小惑星探査機「はやぶさ」と、小型ソーラー電力セイル実証機「IKAROS」の成功事例を踏まえて紹介する。

【講演者略歴】工学修士。宇宙開発事業団（現宇宙機構）2001年入社。ロケット、衛星に関する情報システムの研究・開発、宇宙機のミッションやシステムコンセプト設計活動に携わった後、2008年から全社的な開発プロセスやナレッジマネジメント活動の仕組み構築と普及に取り組む。

金融・流通・サービストラック

FI-1 品質管理とキャパシティ管理のプロセス
13:10 株式売買システムarrowheadでの取り組み

株式会社 東京証券取引所
株式売買システム部長　宇治 浩明

【セッション概要】
東証の株式売買システムarrowheadで取り組んだ品質管理とキャパシティ管理のプロセスを紹介する。品質については、詳細でMECEな要件定義の作成と、設計およびテスト工程での要件トレースを行った。また、各工程を通してフィードバック型V字モデルを適用した。キャパシティについては、長期拡張、短期拡張、緊急拡張の3パターンを用意した。システム容量とレスポンス性能のモニタリングを日次で行い、これをインプットとしてキャパシティ管理プロセスを組み立てた。

【講演者略歴】1986年4月 NTT入社。 1988年 NTTデータに移籍し以後、金融機関向けシステムの開発に一貫して従事。 2006年6月 東京証券取引所に入社し、次世代株式売買システムarrowheadの開発にプロジェクトマネジャーとして参画。 2009年1月より現職。

FI-2 両輪はBABOKとPMBOK®
14:15 人と人を繋げるプロジェクトマネジャーの新常識

株式会社パスモ　システム部
アシスタントマネジャー　平井 丈裕

【セッション概要】
㈱パスモでは、約二年前からBABOKを取り入れている。ここにきて、既に導入済みであったPMBOK®との連携が、いくつかの成功体験をもたらし、プロジェクトを進める上での新常識として社内に定着し始めてきた。
今回は、その成功事例の中でも既存の枠組みを超えた「人の繋がり」とそれを支えた「仕組み」によって、新しい価値を生み出す事が出来た事例に焦点をあて、その成功要因や勘所（コツ）と合わせて紹介する。

【講演者略歴】1997年、外資系大手システムインテグレータに入社し、大規模開発のプロジェクトマネジャーを歴任。問題プロジェクトの立て直しを多数経験したことから、"火消し役"を強みとする。2009年より現職。次期システムの超上流工程を中心役として進めている。保有資格はPMP®、SSCPなど。

FI-3 ITプロジェクトを成功に導くPMO
15:35 顧客側マネジメントPMOのベストプラクティス

株式会社コア　ビジネスソリューションカンパニー
コンサルタント／PMO　百村 幸男 CFP

【セッション概要】
最近、ITプロジェクトにてPMOを導入するケースが多く見られる。しかし、その多くは、進捗管理などの計数管理を主な役割としたものであり、プロジェクト遂行に対するPMO導入の効果は限定的である。ITプロジェクトでのPMOの最も重要な役割は、IT導入顧客の経営課題を解決するプログラムマネジメントの実行支援である。その成功条件について「中堅商社のBPRを伴う基幹システム導入プロジェクト」での顧客側マネジメントPMOの実践経験を通して明らかにする。

【講演者略歴】某エンジニアリング系IT企業にて、企業経営へのプロジェクトマネジメントの適用に関するEPM導入コンサルティング業務に従事（2004年-2006年）。2006年から㈱コアにてPMO（プログラムマネジメントオフィス）コンサルティング業務に従事。PMS。

FI-4 金融サービスにおけるIT価値の協創
16:40 事業パラダイムシフトを支えるITガバナンス

株式会社金融ビジネスアンドテクノロジー
代表　島田 直貴

【セッション概要】
金融界は、収益トップラインの限界とマネーフローの変化で成長戦略を描けずにいる。膨大な資産を活用して国富を増やすために、グローバル化の強化とビジネスモデルの変革が不可欠である。一方で信用秩序維持と顧客保護を目的に、規制は多層化している。こうした環境下、ITには、商品・サービス・チャネルに対する顧客ニーズ変化との同期が求められる。
コアテクノロジー、アーキテクチャ、開発技法、組織体制をいかに変革すべきか考察する。

【講演者略歴】㈱金融ビジネスアンドテクノロジー代表。1971年日本IBMに入社以来、一貫して金融機関の情報システムに従事。2000年より現職。IT戦略コンサルタントとして多くのコンサルティング、著作、講演を行っている。2011年2月よりNPO法人金融ITたくみs理事長。

PM人材育成トラック

PS-1 斎藤佑樹　主将達と共に歩んだ4年間
13:10 早稲田大学野球部 明治神宮大会初優勝までの軌跡

新日本製鐵株式會社
マネジャー　應武 篤良

【セッション概要】
甲子園で優勝を遂げた斎藤佑樹を含む多くの新人達が、我が早稲田大学野球部に入ってきた。私は、監督として彼らを預かり、一流の選手に育成し、次のステージへ送り出す責務があった。4年間寝食を共にし、勝つことだけを目標に厳しく導いた。慶應との優勝を賭けたリーグ戦、そして大学日本一を決める明治神宮大会決勝。しかしそこで私は、野球が出来る喜びに感謝し、相手を称えることを学んだ。それが結果的に勝利をもたらしてくれた。本講演では、彼らと共に歩んだ軌跡をたどり、大学野球での選手育成について語る。

【講演者略歴】早稲田大学野球部前監督。1976年崇徳高で捕手として春、夏の甲子園に出場、春は優勝。1977年早大進学。1981年新日鐵入社。1988年ソウル五輪で銀メダル獲得。現役引退後、新日鐵君津監督、日本代表コーチ、早大コーチを経て、2005年春から10年秋まで第17代早大監督就任。広島県出身。

PS-2 プロジェクトマネジメント East meets West
14:15 グローバル視点を目指すプロジェクトマネジャーのための

PMI日本支部
プログラムディレクター　永谷 裕子

【セッション概要】
昨今、IT開発プロジェクトのプロジェクト・マネジャーは出来れば避けたい職種になっているようです。アメリカではプロジェクト・マネジャーは魅力的なキャリアと考えられています。様々な多国籍企業でのグローバルプロジェクトの経験から、この違いを紐解いていきます。
・日本流プロジェクトマネジメントと欧米流プロジェクトマネジメント。
・日米のプロジェクト・マネジャーの立ち位置の違い。
・日米双方から学ぶプロジェクトマネジメントのアプローチ。

【講演者略歴】多国籍企業でIT開発プロジェクトにプロジェクト・マネジャーとして従事。北海道大学大学院非常勤講師、慶応義塾大学大学院非常勤講師、東京地方裁判所(IT専門) 専門調停委員、JUAS公認システムコンサルタント、産業カウンセラー、MBA(オハイオ州立大学)、PMP®。

PS-3 アジャイル開発におけるリーダーシップ
15:35 アジャイル開発プロジェクト成功の秘密

株式会社アイネット
代表取締役　竹腰 重徳 CFP

【セッション概要】
アジャイル開発は、変化する顧客の要求を迅速に実現するため、自己組織的チームと顧客との協調によって実施される反復的、漸進的な開発方法である。アジャイル開発のPMに必要なリーダーシップは、指示管理型リーダーシップではなく、チームメンバーの要求や育成を最優先し、チームを下から支えて導いていく協調型リーダーシップ（サーバント・リーダーシップ）である。それにより、チームは、自ら課題を迅速かつ創造的に解決できる自己組織的チームに成長し、プロジェクトを成功に導く。

【講演者略歴】大阪大学卒業後、マツダ、日本IBMのSE、営業を経て、㈱アイネットを設立。IT関連企業を対象にPM研修、リーダーシップ研修、業務知識研修、営業研修、経営品質向上プログラム研修等のサービスを実施。過去に北海道大学非常勤講師や板橋経営品質賞審査員を経験。PMP®。

PS-4 PM実戦力育成策の研究報告
16:40 実践力を真の「実戦力」に高めるために

①富士通株式会社　木野 高史
②株式会社NTTデータユニバーシティ　秋山 雅俊
③株式会社インテック　高野 智 SIG

【セッション概要】
プロジェクトマネジャーの実戦力を高める取り組みは近年、企業だけではなく、大学でも研究熱が高まってきている。言い換えればそれだけ難しいテーマであるといえる。IT-SIGの育成WGでは各組織で行われている育成事例を調査し、より効果的な実戦力育成策の研究に取り組んできた。本セッションではその研究成果から、PMの実戦力を形成する重要な要素とその育成プロセスのモデルの提示、並びに各育成プロセスの具体策や特長、育成策の実践から得られたことについてご紹介したい。

【講演者略歴】①2000年までシステム開発に従事。以後富士通PMコミュニティの運営やPM育成に携わる。②2006年4月からNTTデータグループ向けの研修サービスに従事。教育管理システムのプロジェクト責任者を務める。③1996年NECからインテックに転職。2003年までシステム開発に従事。以後プロジェクト管理の標準化やPM育成に携わる。

1日目（9月8日）セッション概要-III

特別企画

SP-1 13:10 これからの事業継続マネジメント
経験を実践へとつなげるBCM

株式会社富士通総研　第二コンサルティング本部
BCM事業部　事業部長　伊藤 毅

【セッション概要】
東日本大震災によるビジネス被害と各企業の対応状況を踏まえ、今後の事業継続の目指すべき姿や方向性、企業における危機管理および情報システムのあり方について、ご紹介いたします。
また、今回の被災経験をどのように今後の計画見直しにつなげるのか、その為にはどのように記録を残すべきかの、各企業が抱える直近の課題についても解決の方向性をご紹介いたします。

【講演者略歴】2005年より、富士通株式会社において富士通グループのBCM推進責任者を務める。2007年以降は、株式会社富士通総研BCM事業部長として、企業危機管理全般にわたるコンサル部門の責任者として幅広い業種の企業をサポート。特定非営利活動法人 事業継続推進機構 副理事長。

SP-2 14:15 想定外の事態におけるリーダーのあり方
平時の行動が決め手 ～化学テロ対応からの教訓

ダイコー株式会社
取締役　専務執行役員　福山 隆

【セッション概要】
マニュアルどおりにきちんとできることは仕事の基本であるが、「想定外」の事態はつねに起こりえる。そのときに必要になる合理的な思考と行動は平時の蓄積からしか得られない。化学テロという未曾有の事態にリーダーとそのチームはどのように行動したか。クライシスマネジメントの一例として、①状況の把握、②オプションの列挙、③行動方針の決定、④計画の作成、⑤実行の命令、⑥実行状況の確認など、自衛隊という組織のマネジメントの一例を提示する。

【講演者略歴】1947年生まれ。1970年防大卒。陸上自衛隊入隊。外務省出向。冷戦崩壊直後には防衛駐在官としてソウルに駐在。地下鉄サリン事件時除染隊を指揮。情報本部初代画像部長など情報職を歴任。05年春、西部方面総監部幕僚長・陸将で退官。ハーバード大学上級客員研究員。

SP-3 15:35 災害に備える新しい社会の仕組みの創造

特定非営利活動法人シュアティ・マネジメント協会
理事長　佐藤 唯行

【セッション概要】
東日本大震災は、現在の社会に大きな衝撃を与えた。そして私達は今、災害に対して具体的に考え行動しようとしている。しかし、それは継続的な活動となり得るだろうか？ 阪神淡路大震災も、当時の私達に大きなインパクトを与え、社会はその災害に向き合おうとした。そして、防災を普遍的な価値と捉え人々は復旧・復興という時期を過ごしたが、その後、私達は日々の生活に追われる中で、その価値を忘れていってしまったのではないだろうか？ 今回、社会が災害などの人々の安心や安全に取り組み続ける仕組みを新たに創造した活動について報告する。

【講演者略歴】1996年:災害軽減工学において修士号を取得　1996年:清水建設㈱ 国内および海外で勤務　2008年:東京大学生産技術研究所 *民間活力による社会全体的な災害対応力の研究をテーマとし研究活動を再開 2008年:NPO法人シュアティ・マネジメント協会を立ち上げる。

SP-4 16:40 復興支援プログラム「ITで日本を元気に!」
その後の被災地の状況と震災復興の進捗について

トライポッドワークス株式会社
代表取締役社長　佐々木 賢一

【セッション概要】
東日本大震災から半年。マスメディアからの情報は、震災当初に比べかなり少なくなってきています。そこでこのセッションでは、平日は東京と仙台を往復、休日は仙台と三陸を往復している企業経営者の目線から、災害時のリーダーシップ、発生から半年経った東日本大震災の被災地の状況、復興の進捗状況について生の情報をお伝えいたします。また、復興支援プログラム「ITで日本を元気に!」及び「仙台から日本を元気に!」の活動状況をご報告するとともに、今後の活動計画をお話しさせて頂きます。

【講演者略歴】1967年仙台市生まれ。株式会社日本総合研究所、日本オラクル株式会社を経て、2005年にトライポッドワークス株式会社を創業。当社はネットワークセキュリティや組込みソフトウェアの分野での独自ソリューションに強みを持ち、全国に4000社以上の顧客を持つ仙台のIT企業。

カフェ・ド・eシンポ
9月8日(木) 9:15～16:40　2F 平安

“展示コーナー”“参加者交流の場”“ドリンクサービス”

出展企業名	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内および部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
ITエンジニアリング株式会社	エンジニアリング／建設／製造向けプロジェクトマネジメント用パッケージとテンプレートのご紹介。
プラネット株式会社	「PM標準10のステップ」（公開セミナーは150回超）やPMP®受験対策コース、アドバンスコースなど、高品質セミナーをご紹介します。
アイシンク株式会社	PM研修プログラム・PM力診断など、プロジェクトを成功に導く効果的なサービスのご紹介。
日揮情報システム株式会社	IT企業、エンジニアリング企業向けのサービス・事例の紹介。
プロジェクトマネジメント情報研究所株式会社	実践する次世代型プロジェクトマネジメントのコンテンツのデモンストレーション、体験型学習プログラムの紹介。

2日目（9月9日）セッション概要-I

A-1 10:00 日本再建に不可欠なP2M:プロジェクト&プログラムマネジメント
正しいP2Mを学ぼう、緊急時でも活躍できるプロマネのノウハウ

有限会社経営組織研究所
代表取締役　渡辺 貢成　P2M

【セミナーの狙い】
①危機に直面している日本経済はPMBOK®では救えない。正しい青図画が求められている。あなたは構想計画をかけるか。確実に成功するPMの手法を学ぼう。②緊急事態に直面して、あなたは逃げずに行動できるか。そのノウハウは何か。

【セミナーコンテンツ】
①すべての業界を通じてPMは世界中基本的におなじ手法が採用されているが、日本では日本流が横行し、グローバル社会で遅れを取っている。日本流の問題点の指摘とグローバルで勝つためにあなたは何をするべきかを解説する。②人間系のPM:欧米は「企業は組織なり」で運営されている。日本は「企業は人なり」で運営されている。変化の早い時代で日本人は有効に活用されていないことを知っているだろうか。グローバルで勝つための組織と人材のあり方を解説する。

【受講をお奨めする方】
経営者、経営企画者、研究開発者、プロジェクトマネジャー、IT発注者、ITベンダープロマネ。

【講師略歴】職歴:日揮:石油精製（ドミニカ、ブラジル）原子力関連プロジェクト事業副本部長、有人宇宙システム㈱（国際宇宙ステーション計画で利用・運用・安全・宇宙飛行士育成を担当する企業）専務、JPMF初代事務局長、P2M創設委員会事務局、P2Mガイドブック改定委員長、PMC、PMS講師、東北大MOT講師、北陸先端科学技術大学MOT講師、PMAJ理事、東京P2M研究会代表。

B-1 13:45 PMBOK®解説講座
難解なPMBOK®をITプロジェクトで理解しよう!

株式会社日立コンサルティング
産業・流通サービス本部 シニアコンサルタント　秋山 孝之　PMP

【セミナーの狙い】
PMBOK®ガイドは版を重ねて第4版となり、内容はますます洗練されてきた。PMP®取得者は30万人を越え、プロジェクトマネジメント知識の標準として広く認められてきている。しかし、取得者が増える一方で、PMBOK®をどのように実プロジェクトへ適用したらよいか、という課題も残る。そのため本セミナーでは、このPMBOK®ガイドの概要をITの実プロジェクトに当てはめて解説することで、実プロジェクト適用への助けとする（理解促進につなげる）ことを狙いとする。

【セミナーコンテンツ】
PMBOK®ガイドのフレームワーク、9つの知識エリア、5つのプロセス郡、42のプロセス及び、PMBOK®ガイドをIT実プロジェクトにマッピングした内容を解説。

【受講をお奨めする方】
PMBOK®ガイドの内容を知りたい方、PMP®取得を目指す方、プロジェクトマネジャー、プロジェクトリーダの方。

【講師略歴】1973年生まれ。国立茨城大学工学部卒。某大手電気メーカにて、原子力発電所の品質保証業務を経験した後、IT企業へ転職し、官公庁のGIS（地図情報システム）開発、ICカードを用いたシステム開発等のプロジェクトリーダー・マネジャーを経験。現在は日立コンサルティングに所属して、PMO、各種BPR、戦略立案等のコンサルティング業務に従事している。日本プロジェクトマネジメント協会会員、PMP®。

A-2 10:00 ポートフォリオ&プログラムマネジメント概説
PMI®（米国PM協会）標準の知識体系の解説

株式会社ピーアンドアイ・PM教育・コンサルティング 本部ディレクター　内藤 裕一
東洋エンジニアリング株式会社　プロジェクト管理部　米澤 徹也　PMP

【セミナーの狙い】
プロジェクトの成功はプロジェクト単独で達成できるものではないということが明らかになっている。プロジェクトはビジネスを成功させるために実行され、その成功は企業戦略・目的に貢献するものでなくてはならない。PMI®は、ビジネス目的達成に最適のプロジェクトを選定するポートフォリオマネジメント、特定の目的を達成するために複数のプロジェクトを実行するプログラムマネジメント、組織成熟度を評価するOPM3を、企業目的の達成のための標準体系として提唱している。当セミナーは、これらのPMI®標準を概説し、プロジェクトの真の成功を達成する知識の入り口を提供することを目的としている。

【セミナーコンテンツ】
PMI®標準の体系、ポートフォリオマネジメント概説、プログラムマネジメント概説、OPM3概説

【受講をお勧めする方】
プロジェクト・マネジャー、プログラム・マネジャー、ポートフォリオ・マネジャー、PMI®プロジェクトマネジメント体系を知りたい方

【講師略歴】内藤裕一:日本IBM、アクセンチュア、日本SGI、日本EDSでプロジェクトマネジャー、プログラムマネジャー、システム・インテグレーション本部長などを務める。研修第2部副部会長、国際大学非常勤講師。
米澤徹也:東洋エンジニアリング㈱に入社後、一般産業・石油化学プラントの設計・プロジェクトおよびコストエンジニアリング業務を担当。現在プロジェクト管理部に所属。PMAJ理事、研修第2部部会長。

B-2 13:45 ITプロジェクト「急がば回れ」の法則
プロジェクト成功のカギは立ち上げ時の土台作り

株式会社ヘッドストロング・ジャパン
シニア マネジャー　戸田 朋宏

【セミナーの狙い】
ITプロジェクトのトラブル原因を突き詰めていくと、初期見積り・想定リスク・体制構築などの土台作りが不十分であることに辿り着くケースが多い。このような場合、多少のメンバー増強やプロジェクト管理方法の見直しだけでは、事態を好転させることはできない。
本セミナーでは、プロジェクト立上げ時の土台作りを具体的に説明するとともに、プロジェクト立て直しを行う際のテクニックやノウハウをプロジェクト事例を含めながら紹介し、プロジェクト成功のカギを理解していただく。

【セミナーコンテンツ】
・プロジェクト立上げにおける進め方・ポイント
・プロジェクト立て直しにおけるアセスメントと土台の補強
・プロジェクト実行に活用できる管理ツール

【受講をお勧めする方】
ITプロジェクト投資の意思決定者、ITプロジェクトマネジャー、ITプロジェクトリーダー

【講師略歴】日系医薬品会社にて営業及び人事を経た後、外資系コンサルティング会社にて、情報・経営戦略立案、プロセス改善、チェンジマネジメント等のコンサルティング・サービスを提供。
株式会社ヘッドストロング・ジャパンにおいては、プロジェクトマネジャーとして、EA(エンタープライズ・アーキテクチャ)業務、ITプロジェクトPMO、ベンダーマネジメント支援、コスト妥当性評価等のCIO支援に従事。

2日目（9月9日）セッション概要-II

A-3 10:00 問題深掘への「なぜなぜ5回（階）」
「もっと一生懸命」だけで問題はなくならない

株式会社 富士通アドバンストエンジニアリング
共通技術センター シニア・プロフェッショナル　小原 由紀夫 SIG

【セミナーの狙い】
PMとメンバーは現場で「一生懸命活動」しているが、問題は発生する。原因の多くは現場にあるが、現場だけはない。一部の原因は、ステークホルダーにあるはずである。現場への「もっと、一生懸命」だけでなく、それぞれの対策を導く分析が必要である。
IT-SIG内WGでは、トヨタ生産方式（TPS）で適用される「なぜなぜ5回」について工場とICTプロジェクトの差異を踏まえ、深堀を分析し、体系化した。①問題識別、②なぜなぜ5回（階）、③真因の検証の3つのフェーズとこれを支える考え方を紹介する。

【セミナーコンテンツ】
1．問題の深堀とは？、 2．なぜなぜ5回（階）、 3．真因の検証、
4．問題の識別、 5．価値共有

【受講をお勧めする方】
1．ICT関連のPM、リーダー、 2．ICT企業の経営層、部課長、
3．TPSに興味がある方

【講師略歴】1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネジャーとして参画した。グローバルPMメソッドを普及し、TPSのセミナーと実践支援をしている。PMP®。PMAJ会員。PMI会員。PMAJ-IT-SIG「TPSに学ぶPM-WG主査。米国ケイデンスマネジメント社認定講師。

B-3 13:45 メンバーは作業者 OR 技術者?
自立した中堅エンジニアの育成と協創の場を作る

有限会社デバッグ工学研究所　代表
PS研究会・代表　松尾谷 徹 SIG

【セミナーの狙い】
既存の技術に基づくITプロジェクトのビジネスは、コスト競争とグローバル化が進んでいる。一方、エンジニアの労働市場が閉鎖的な日本企業は、過去の技術を持つ人材を抱え企業存亡の危機にある。
ここでは、2つの課題、「変化に向かって考え学ぶ自立したエンジニアの育成」と「変化に向かって知恵を出し合える協働の場としてのプロジェクト」をテーマに対策を考える。

【セミナーコンテンツ】
自立したエンジニア育成は、エンジニアとしての意志、経験の奥にある技術の原理・原則、客観的に他者に説明し合意を引き出すスキルなどの育成プログラムと実施例の紹介。
協働の場は、エンジニアの社会貢献、技術選択の規範、後輩育成など、エンジニア・マインドの共有であり、そのプログラムと実施例の紹介。

【受講をお勧めする方】
中堅技術者の育成を考える方、PMOや技術・人材スタッフ、経営者

【講師略歴】1972年大手通信メーカーに勤務。汎用OSの開発に従事すると共に、中堅技術者研修（1年間）の講師、企画を行う。2000年にはモダンプロジェクトマネジメントアカデミーを設立し、技術を核とするPM育成を行った。2002年独立し、現職。明治大、東京理科大を経て、現在、法政大学理工学部兼任講師。ISO/IEC JTC1/SC7 WG26 Software Testing 幹事、博士（システムズ・マネジメント:筑波大）

A-4 10:00 クラウド時代のRFP作成実践法
ユーザ企業のクラウド戦略とIT調達力の強化

匠システムアーキテクツ株式会社
代表取締役　前田 卓雄

【セミナーの狙い】
クラウド時代に突入しユーザ企業にIT/システムコスト削減機会が生じただけでなく、グローバルなクラウド環境・新アプリ・IT端末/システム機器を活用した新しい事業機会/ビジネスモデル創造機会が激増している。
本セミナーではユーザ部門とIT/システム部門が協調・協働し、この両面の機会をどうすれば最大限活かせるか、そして自社のIT/システム調達力・運用力を強化・加速させるRFP（要求仕様書）をどうすれば円滑に作成できるかを中心にプロジェクト推進の要点を取り上げる。

【セミナーコンテンツ】
・クラウド時代に必要なRFP（機能要求・非機能要求・サービスレベル要求）テンプレート
・ユーザ企業に欠かせない要求創造工学と要求工学の概要

【受講をお勧めする方】
・ユーザ部門のIT/システム活用担当者、IT/システム部門の担当者
・クラウド/システム製品ベンダー提案担当者

【講師略歴】外資系コンピュータベンダSE、デロイトトーマツコンサルティングを経て独立。主に経営戦略と整合する情報戦略策定、ユーザ企業、中央省庁・自治体等でユーザ部門を主体にした個別プロジェクトRFP（提案依頼書、要求仕様書、調達仕様書とも呼ぶ）作成を支援、ビジネスモデル/RFPをベースにしたプロジェクト/プログラム/ポートフォリオ管理の推進、IT/システムを活用した競争力向上業務に従事。

B-4 13:45 PMの先にあるキャプチャーマネジャー
P2Mとの類似性に着眼した案件獲得のメソッド

シップレイジャパン株式会社
首席コンサルタント　北村 和彦

【セミナーの狙い】
プロジェクト・プログラムマネジャーが目指す姿として、キャプチャーマネジャーを掲げ、P2Mスキルの発展として、勝率の高いビジネスデベロップメントマネジメントについて解説する。
今日では、欧米においてスタンダードとなりつつあるキャプチャーコンセプトとP2Mとのフィロソフィーの類似性に着目しつつ、その概要を説明するとともに、メソッドのキーコンセプトについて、例示を交えて解説する。

【セミナーコンテンツ】
1．キャプチャーコンセプト概要
2．P2Mとのフィロソフィーの類似性
3．メソッドの基礎知識
4．メソッドのキーコンセプト解説

【受講をお勧めする方】
プロジェクトマネジャーとして活躍している方で、将来、ビジネス拡大を担う人材。PMの育成を考える人材開発担当者。
ビジネスディベロップメント、組織開発担当者。

【講師略歴】1960年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒。アクセンチュアパートナー、セピエント株式会社バイスプレジデントを経て、独立。2002年 ドリームスキルパートナーズ設立。2009年 シップレイジャパン株式会社設立、2010年よりシップレイジャパン株式会社首席コンサルタントを務める。

A-5 10:00 アジャイル開発とプロジェクトファシリテーション
現場力を高めるモチベーションアップのツールと場づくり

株式会社チェンジビジョン代表取締役
株式会社永和システムマネジメント副社長　平鍋 健児

【セミナーの狙い】
昨今の日本でも知名度を増してきた「アジャイル開発」の概要を理解していただくとともに、それをプロジェクトマネジメントに応用した「プロジェクトファシリテーション」を提案し、日本の開発現場を、より生産的に、強調的に、そしてなにより楽しくしていきたい。

【セミナーコンテンツ】
近年のソフトウェアの短納期化・高品質化というビジネスニーズに答えた「アジャイル開発」。チームが情報を共有しながら課題解決するためには、さらなる現場力が必要である。
このセミナーでは、アジャイル開発の概要を説明した後、トヨタ生産方式からヒントを得た見える化手法を使って、現場のモチベーションを高めることで生産性を伸ばす「プロジェクトファシリテーション」を、実践方法を交えて紹介する。

【受講をお勧めする方】
経営層から、現場マネジャー、開発者まで。
アジャイルの知識がない方でもご参加できます。

【講師略歴】UMLエディタastah*（旧JUDE）の開発等、20年以上のソフトウェア開発経験、うち10年のアジャイル開発経験をもち、開発現場をより生産的に、協調的に、創造的に、そしてなにより、楽しく変えたいと考えているコンサルタント。2008年には、アジャイルの普及活動への貢献を認められ、一年に世界で2名に与えられるGordon Pask Award 受賞。訳書『リーンソフトウェア開発』等多数。

A-6 10:00 修羅場を乗り切るPMの資質
プロジェクトの難局から学し、大きく成長する

プラネット株式会社
代表取締役　中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】
プロジェクトでは、QCDの目標達成を求められ、プロジェクト・マネジャーには、修羅場であり、針のむしろである。しかし、プロジェクトで成功する人は、その難局を乗り切り、そこから大きく成長を遂げた人にほかならない。
ここでは、最新の心理学の知見「心の復元力」（Resiliency）の視点で、難局を乗り切る心のあり方を考えてみたい。

【セミナーコンテンツ】
心の復元力テスト、心の復元力とは何か、心の復元力の5段階、心の復元力を高める（いざという時とは、反応のいろいろ、セルフ・トーク、刺激と反応の間、復元粒子を蓄える、笑いと健康）、私の目標:パーソナルPMの視点（ビジョンの構造、現代人の7つの領域、25の目標のすすめ、運命がレモンをくれたら、プロジェクトの贈り物、など。

【受講をお勧めする方】
難局を乗り切って成長したいと望む方。

【講師略歴】プラネット㈱ 代表取締役社長。日本のPM研修・コンサルの草分け的存在。インテルでマイクロプロセッサーの工場立上げプロジェクトに参画したあと、起業・独立。『PMプロジェクト・マネジメント』『世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント』など、多数の著書・訳書がある。最近では、「心の復元力」の紹介と、プロジェクトの記録を書き残そう(!)という活動に注力している。

B-5 13:45 プロジェクトマネジャーのための"Dress for success"
印象（装い）はビジネスの成功に直結します

株式会社パーソナルコンサルティング
代表取締役　イメージコンサルタント　鶏内 敏江

【セミナーの狙い】
プロジェクトマネジャーのあなたは"チームメンバーやステークホルダーからどう見られているか""プロジェクトマネジャーとしてあなた自身がどのようなメッセージを発信しているか"を意識していますか? 私達は"人がどう見えるか"によって無意識・瞬時に判断し評価しています。「イメージマネジメント」は印象の3つの要素を最適化し、あなたの潜在的な可能性を広げ、成功指数を最大限に引き上げるツールです。外面・内面を整えてコミュニケーションの質を高め、個人や組織の関係性をよりよくする「イメージマネジメント」についてイメージコンサルタントがご紹介します。

【セミナーコンテンツ】
・自分を戦略的に可視化するイメージマネジメントとは
・魅せる伝わる自信がつく「プロフェッショナルな印象」のつくり方

【受講をお勧めする方】
・印象が重要視されるポジションの方
・印象づくり、自己改革、コミュニケーションや人間関係の活性化にご興味のある方

【講師略歴】全日本空輸㈱を経て、カウンセリング、接遇講師、人材育成に従事。国際イメージコンサルタント協会（本部:米国）所属イメージコンサルタント／産業カウンセラー／キャリアコンサルタント。外見・内面両面へ、カウンセラーならではのアプローチでキャリア開発、教育、メンタルヘルスなど幅広くイメージに関するコンサルティングを展開。個人、企業、学校等へセッション・セミナーを実施。

B-6 13:45 プロジェクトマネジャーの未来
プロマネの哲学と組織デザイナーとしての役割

アイシンク株式会社
代表取締役　伊藤 健太郎

【セミナーの狙い】
プロジェクトマネジャーの悩みや楽しみについて、様々な業種のプロジェクトマネジャーの哲学を基に検討していく。そして、これからの新しい創造的なプロジェクトをリードしていくのに必要な心構え、武器そして組織デザイナーとしての役割を考えていく。社会や組織を生き生きとさせ、人との関係性を良くする事ができるのは新しいタイプのプロジェクトマネジャーとチームそして良好なシステムが機能する組織である。これらについて検討していく。

【セミナーコンテンツ】
1．プロジェクトマネジャーの哲学（インタビュー事例）
2．プロジェクトマネジャーの悩み
3．プロマネの武器
4．本当にチームなのか
5．プロジェクトを成功できる仕組みを作る
6．組織のサポートの未来

【受講をお勧めする方】
プロジェクトマネジャー、プロマネ希望者、組織の責任者

【講師略歴】NKK（現JFE）にて、船用エンジンの製造、環境プラントの研究開発、設計、プロジェクトを国内や台湾、タイで実施。2000年にプロジェクトマネジメントに特化した総合的サービスを行うアイシンク株式会社を設立。著書として、「プロジェクトはなぜ失敗するのか」（日経BP社）、「プロマネはなぜチームを壊すのか」（日経BP社）、「狩猟型プロジェクトマネジャーの哲学」（生産性出版）等がある。

2日目（9月9日）セッション概要-III

A-7 10:00 教育の原点に立ち戻って
「伝達、調教的指導」から「気付き・探求する姿を目指す指導」の転換

東京福祉大学　教授
星 正雄

【セミナーの狙い】

1．誰の為の教育
教育の目的は、子どもたち（社会人を含む）一人一人の自己実現にある。すなわち、一人一人の人間としての位置付けを前提とした、個の認識とその成長を目的としているのが教育であるはずである。

2．伝達、調教的指導
戦後も含め、日本の教育が歩んできたものは学習者である子どもたち（社会人）へ、教材の伝達が指導の主たる手法であり、あたかも動物を調教しているかのような様相を呈していた。

3．学力向上への転換
「ゆとり教育」と言われ、まるで、教育の失敗の根源であるかのように非難されたのはつい昨日のことのようであるが、指導の量を増やすことで安心している新しい教育も何らの解決には至らない。

4．考え、探求する姿
学習の主体者である子どもたち（社会人）が自分の考えをもち、試行錯誤し、高めていく姿を育てていく授業や評価こそが、今こそ求められる教育である。

【講師略歴】東京教育大学体育学部健康教育学部 卒。中学校教諭：1. 私立明星学園中等部　2. 公立中学校一保谷市立青嵐中、三鷹市立第2中。中学校校長：町田市立つくし野中、多摩市立西落合中、世田谷区立八幡中。私立中高校校長：トキワ松学園中高校　大学（教授）：東京福祉大学・大学院（教授）。全日本中学校長会：会長（平成13・14年度）。（財）日本中学校体育連盟：会長（平成13・14年度）。中央審議会教育審議会：委員（平成13・14年度）。

B-7 13:45 チームビルディングの技術
最強チームの作り方講座

している株式会社
代表取締役　長尾 彰

【セミナーの狙い】

3.11以降、多くの場面で「チームをつくる能力」がマネジャーに求められています。
短い時間でチームを作り上げ、目指す成果をあげるための『チームビルディング・スキル』を学びます。
チームの発達段階に合わせた働きかけ方（ファシリテーション）をすることでマネージメントプロセスに劇的な変化をもたらすことができます。

【セミナーコンテンツ】

- チームとグループの違いについて
- チームの発達段階という考え方
- リーダーシップとフォロワーシップ
- 強みを活かしたチーム作り
- 「ファシリテーション」という関わり方の技術

【受講をお勧めする方】

プロジェクトマネジャー、チームリーダーなどチームを率いる立場にある方、あるいは今後チームリーダーになる予定の方

【講師略歴】チームビルディング・ファシリテーター。している株式会社代表取締役、NPO法人エデュケーショナル・フューチャーセンター代表理事、プロジェクト結コンソーシアム理事長、文部科学省熟議ファシリテーター、あたらしい新しい公共円卓会議（Public Renovation Club）発起人など対象を問わずに幅広い分野で活躍中。体験学習を用いたワークショップのファシリテーションに定評がある。

A-8 10:00 「どこでもリーダー」を育てよう
『坂の上の雲』から学ぶリーダーの育て方

株式会社 ロゴ
代表取締役社長　津曲 公二

【セミナーの狙い】

リーダーはそれまでのやり方を変える人。今こそ「自ら考え行動する人」が求められている。司馬遼太郎の『坂の上の雲』には列強の仲間入りを果たした明治期の日本がいかに人材を育ててスーパーチームを作り上げたかが描かれている。転換期の我が国を動かすのはカリスマリーダーではなく、組織のあらゆる階層に輩出するリーダーたちだ。そのために、リーダーが次のリーダーを育てる「育てる組織」と、組織力を発揮するための、地位や権限とは別のリーダーの「束ね力」を紹介する。

【セミナーコンテンツ】

1．『坂の上の雲』に見る「どこでもリーダー」
2．人には向き・不向きがある
3．組織を束ねる力とは
4．リーダーが今すぐやるべき三つのこと

【受講をお勧めする方】

活き活きとした風通しの良い組織を模索されている部門長やプロジェクトマネジャー

【講師略歴】日産自動車㈱にて、生産技術・原価管理・パワートレーン新商品開発などを経て、2003年に㈱ロゴを設立。PMを我が国のビジネスカルチャーにフィットするよう「科学的仕事術の体系」として展開。「作業から仕事へ」など「三つの感」を仕事のなかにいかに溶け込ませるか苦心している。近著（2010年）に「『坂の上の雲』に学ぶ勝てるマネジメント」、「実践!ものづくりイノベーション」など。

B-8 13:45 実戦システム運用プログラム開発
危機に行動できる人と組織を創る

データセンター開発コンサルタント
岡崎 博之

【セミナーの狙い】

現実のシステム運用において、人と組織はあらゆる事象に迅速かつ適切に行動しなければならない。危機を招かない行動と危機に際しての行動を可能にすることがシステム運用プログラムが目指すものである。本セミナーでは『人と組織』に着目して『危機において行動を可能にする』ための重要事項について事例・経験・理論をもとに解説する。

【セミナーコンテンツ】

- 事例に見るシステムとシステム運用の実際
- システム運用と人の行動特性・組織特性
- 緊急時に求められるコミュニケーション
- システム運用におけるリスクと危機、情報・文書・記録、学習・教育・訓練
- 危機対応できる人・組織を創出するシステム運用プログラム

【受講をお奨めする方】

システム運用をビジネスとされる方、システム運用を担当される方
システムを開発される方、システムをサービスとして利用される方

【講師略歴】1956年　富山県生まれ。石川高専、大阪府立大学で電気工学を学び、東京工業大学大学院で半導体レーザの周波数安定化を研究。日本HPにて計測システム開発、CAD（電子回路）SE、技術（UNIXシステム管理・ネットワーク管理）講師、医療機器（超音波診断装置）営業を経験。電子部品開発会社のIT部門担当、データセンターSEを経て現在データセンター開発コンサルタントに従事。PMAJ会員。

A-9 10:00 若手を育てる!生きたOJTのススメ
実践事例から今すぐ使える育成ノウハウを学ぶ

グローバルナレッジ ネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント 産業カウンセラー　田中 淳子

【セミナーの狙い】

若手を育てる必要性はわかっていても、具体的に何をどう教え、育てればよいか戸惑う方は多い。誰でも取り入れられるノウハウを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】

企業では1～3年目くらいの若手に1対1のOJTトレーナーを割り当て育成にあたるケースが増えている。若手を早期戦力化するための制度である。
この「OJT制度」により、確実に若手は育ちやすくなる。その上、指導に当たるOJTトレーナー自身も大きく成長できる。双方が成長できるOJTの中で、具体的にどのように育成しているのか、各企業の実践例を交えて紹介する。
「褒め方」「叱り方」「仕事の指示の出し方」「悩みの聞き方」「質問への答え方」など身近なノウハウを多く取り扱う予定である。
（隣の方同士で対話する体験型セミナーである）

【受講をお勧めする方】

部下や後輩を育てる立場にある方、若手指導に興味がある方

【講師略歴】1986年日本DEC入社、IT技術教育に従事後、1996年より現職。「日経ITプロフェッショナル」「日経コンピュータ」等でコミュニケーションや若手育成に関する連載。著書「速効!SEのためのコミュニケーション実践塾」（日経BP社）「はじめての後輩指導」（日本経団連出版）「コミュニケーションのびっくり箱」（日経BPストア）他。近年は主に、企業の若手育成を目的としたOJT制度を支援している。

A-10 10:00 コンフリクト・マネジメント
多様化する職場人間関係における協調的問題解決

株式会社オイコス
メンター　鈴木 有香
ワークショップ

【セミナーの狙い】

多様性を前提とする雇用環境において、職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎を紹介する。
また、Win-Winという概念を体感し、協調的問題解決の視点からの交渉、問題分析をケース・スタディーを通して学ぶ。

【セミナーコンテンツ】

コンフリクト・マネジメントストラテジーとその選択、協調的問題解決モデルの紹介、ケース・スタディー、一部体験学習やグループ・ディスカッションを含む。

【受講をお勧めする方】

基礎的なマネジメント・スキル、職場での問題解決能力にご関心のある方々。

【講師略歴】早稲田大学紛争処理研究所研究員、株式会社オイコス　メンター。異文化教育コンサルタント。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ（米国）にて修士号、上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。コンフリクトマネジメント、多様性研修、異文化研修、リーダーシップ研修に多数実績。著書に「コンフリクト・マネジメント入門」、文部省検定教科書「On Air」（共著）など。

B-9 13:45 プレイングマネジャーのための5分間コーチング
プレイングマネジャーのためのシンプルなコーチングで人財育成を考える

株式会社アネゴ企画
上田 雅美
ワークショップ

【セミナーの狙い】

管理職やマネジャーのほとんどは、プレイングマネジャーです。そして、組織やチームには課題がたくさんありながらも、どうしても業務の遂行を求められるために、なかなか手が付けられないという悩みも多く聞きます。
今回は短くても機能するコーチングを通じて、忙しくても取り組むことができる人財育成を考えてみたいと思います。

【セミナーコンテンツ】

- コーチングの背景と認識の誤解
- コーチングの特徴や強み
- プレイングマネジャーの関わり方を考える
- 仕組みの活用事例

【受講をお勧めする方】

プレイングマネジャーであり、人財育成の必要性を考えている現場の方。
人事のご担当で、マネジャーの取り組みについてお考えの方。強いチームや組織作りに興味がある方。

【講師略歴】商社総務部勤務・パソコンインストラクター・システムエンジニアを経て、独立。 2008年アネゴ企画を設立。 これまでには就業先の企業に企業内コーチとしてコーチング研修・コーチング導入の実績あり。現在ではエクゼクティブ中心にコーチングを行う傍ら、組織内に企業内コーチの育成や、執筆などを行う。職場でリーダーとしてチャレンジする人たちをサポートするリーダー塾主宰。

A-11 10:00 チーム開発力の高いPMになる!
リーダーシップの在り方を確実に変える理論・体験・事例

ビジネスファシリテーション・サービス
代表　新岡 優子
ワークショップ

【セミナーの狙い】

「プロジェクト管理」に関する理論と事例は多い。しかし、プロジェクトメンバー一人ひとりの能力を最大限に引き出し、チームが生き生きと活動できるようにする「プロジェクトマネジャーのチーム開発力」に関する理論は、その必要性が認知されているにも関わらず非常に曖昧であり、実践事例も少ない。
本セミナーでは確実に「チーム開発力の高いPMになる!」ための理論と事例を提供する。そして参加者にその手法を体験して頂く。5時間で必ず何かをつかんで帰って頂けるセミナーである。

【セミナーコンテンツ】

「アクションラーニング」という組織開発理論、変革リーダーシップ論を背景に、リーダー達の人間力を上げるための手法を解説し、実際に体験して頂く。後半では事例を多く紹介する。

【受講をお勧めする方】

組織やチームでリーダーシップを発揮しているあらゆる方々、リーダー育成担当者。

【講師略歴】株式会社SRA、株式会社豆蔵でSE、プロマネ、コンサルタントを経験し、2007年に起業。PMBOK®、CMMをベースとしたITコンサルタント、組織やチームの問題解決プロセスを促進させるビジネス・ファシリテーターとして活躍中。長年のPM経験を活かし、企業の組織改革、プロセス改善、会議改善、チーム開発に力を注ぐ。著書『ファシリテーターの道具箱』（共著）、『システム開発現場のファシリテーション』（共著）